

れてゐる。技術的進歩は既に低品位の銅鑛床の大なるものを實用に供するまでに至つてゐるが鐵鑛及びアルミニウム鑛についても同様なことがいへるのであつて其の程度が緩慢であるに過ぎない。

即ち天然に於いて此等の鑛物は富鑛が廣域に集中してゐるがためである。我が北米の石炭石油は製煉法と用途の進歩によつて莫大もなく増加したが斯かる變遷は將來に於ける鑛物地理を變革せしめるものであり此等の變化の起る地點は大區域にては既に判明してゐる。

高品位の鑛床を追及する一方には貧鑛ではあるが分布の廣いものも發見されるため技術的進歩を以つて肉迫する方針の確定を見るところもある。輓近に於ける技術の進歩、殊に化學の夫れは、權威ある技術家に從へば、將來に於ける合成化學は今日既知の鑛物資源の供給とは全く別に新工業形態をとるに至るだらうとまで明言してゐる。

實際、自然の實驗室に於ける素晴らしい規模の下に代用品を合成することの期待を充分持つるわけで、これが現在及び將來の需要に適合する策である。規模と經費とは實驗室に於ける實驗の成功の商業的應用を排棄させる重點である。現代までの技術的變遷に依つて生れた地理的變動は本質的には鑛業全般が低品位の貧鑛床へと強い轉向を示してきたが爲に第一級の鑛石に對する需要を著しく減退させた。然し未だ現在に於いて稼行されてゐる地質的好條件に恵まれた地域と比較すれば産額に於いて其れ以上の飛躍を示すまでには到らない。(未完)

新著紹介

○更訂國史研究年表

黑板勝美編 岩波書店發行
定價一圓八十錢

黑板先生の國史の研究に附隨した年表であるが、しかし年表として最も要領を得たものであるから、之を獨立の一巻として世に廣布するであらうことを期待する。ことに本書は人名地名件名の索引が六十頁以上も巻末についてゐるから、其

利用價值は甚だ高い。偉人傑士の生死年月など手にとるやうにわかるのみでなく、史的地名に至つては細大洩らさず、誠に親切な年表である。予は讀者の一本を座右に具へんことをすすめる。(藤田)

○日本村落史概説

小野武夫著 岩波書店發行
定價二圓三十錢

農民生活の舞臺としての村落の研究に其人ありと知られてゐる小野博士の近來の快著で四六版四八二頁の手頃な讀本である。第一篇は村落政治史第二村落の發生形態組織並に生長を説明し地理に關係した方面であり第三篇は村落の共同生活第四篇には村と村との交換經濟、第五篇明治維新以後の村落制度の變遷で、以上で一わたり日本の村落史がのべてある。勿論廣汎な問題であるから總て詳ならざる所が多いのも止を得ないが、我等は本書に於て第六篇村落生活十考と題されてゐる各地の多くの祭祀や風俗談を讀むことによつて、限りない郷土愛の湧出を禁ぜざるを得ない。前編の多くの章の中にもいろ／＼面白いエピソードがあるが、議論や時代を超越した農村の生活が現はれてゐる多くのこれらの資料の豊富な本書は誠に近頃の快讀書の一であつたと申したい。(藤田)

○南遊十記

趙君蒙著 中國旅行社發行 價九拾錢

粵漢線全通せんとす即ち上海の趙君、南遊十記の著あり、第一上海より漢口第二、長沙一日、第三涿河大橋、第四南嶽登臨、第五衡陽開見、第六郴州郴水、第七山水橋洞、第八廣

州名勝、第九澳門中山、第一〇香港といふ順序である。旅行記としては簡單であるが、我等はこの記で南嶽登臨の快に接するのみにてはない。漢口から南すればする程風土の變る様子が目に見える。郴州の大道には今も韓退之の古跡があるらしい。趙君は歸り來つて新たに出來た粵漢全通の部分に立派な汽車が走つてゐるけれども、既設の北路南道共にレールの枕木が毀損してゐるから、もしこの新快車を走らしたら、全線直ちに不通となるであらうと警告してゐる。これも亦ノンキな支那の鐵道らしいと思ふ。(藤田)

雜

報

○支那の羊毛

支那では羊を専らじ昔から食用として重用されたもので、元代の名著飲膳正要をみると聚珍異饌の馬思存吉湯は補益溫中順氣とあり羊肉一脚子、草果五箇、官桂二錢同回豆子を一同熬成湯など、出てゐる外補中益氣建脾胃の材として羊肉の入らない料理はない。羊肉に比べると牛肉などはそばにも寄りつけぬ。獨り肉のみではない。羊心、羊腰、羊尾、羊肺、羊腿、羊肋、羊頭、羊腸、羊肝、羊蹄、さては羊血に至るまで一々處方がせてあつて、羊の丸焼の方法まで出る位だから或は牛肉よりも羊肉の方が貴重されてゐるかも考へられる。勿論それは元代のこと、過去はどうであつたかはわからない。羊頭肉といふ謠もある位だが